

第4回 公立能登総合病院協議会 記録

【日 時】 平成21年3月5日（木） 午後3時30分より午後5時10分

【場 所】 公立能登総合病院 会議室（3階）

【出席者】 22名（委員 9名、当院 9名、事務局 4名）

（委員） 北原会長、諏訪副会長、谷内委員、松木委員、津田委員、谷委員、法橋委員
池島委員、佐原委員（欠席 松本委員、竹本委員、村田委員）

（当院） 川口事業管理者、藤岡病院長、谷内副院長、神野経営本部長、三室総務課長、
出村管理課長、北川患者サービス課長、中江田医療情報課長、石垣地域医療連
携室長

（事務局） 永畠経営管理部次長、高瀬係長、羽石主任、森口主事

【内容】

1 病院事業管理者あいさつ

川口病院事業管理者

2 報告について

（1）病院の現況報告

担当者より、資料に基づき4点報告。

<松木委員>

昨年度から実施されている出前講座は、継続して行われていますか。

→ 継続して行っております。昨年度は11回開催し、500人近くの方が参加されました。今年度は3月までの予定を含めて、21回開催し、850名の方が参加される見込みです。

<谷内委員>

外来患者を減らすことにより、収支を良くしていきたいとの報告があったが、その内容をもっと詳しく教えていただきたい。

→ まず、前提に、当院程度の規模の病院は、外来患者を減らし、入院にシフトした診療をするという厚生労働省の方針があります。

以前の当院では、1日に1,200人の外来患者が来られていました。昨今の医師不足の中、午前中に外来患者をたくさん診察した後で、午後から手術をしたり、入院患者を診察したりすると、医師がとても疲れてしまいます。そのため、当院も厚生労働省の方針に従い、外来患者を少しずつ減らし、現在は1日あたり870人になりました。

今後は、「血圧を測って、薬をもらう診療内容の患者様」については、開業医の

先生に逆紹介を行い、半年に1回、開業医の先生から紹介していただいたうえで、当院で詳しい検査をしていただければと思っております。外来患者の数は減りますが、検査をする患者の割合が高くなることで、診療単価が上がりますので、トータルで見ると、経営的に良い状況になります。

最終的には1日の外来患者数を500人にしたいと考えております。今後は、地域医療連携を推進し、開業医の先生とより密接な関係を築きながら、地域医療支援病院を目指していきたいと考えております。

<佐原委員>

救急外来へのコンビニ受診の状況はどうか。

→ 昨年との比較ですが、5%前後の割合で、軽症患者は減って、重症患者は増えています。また、全体の救急患者数も減っています。

このような状況から、住民の方もある程度、意識してくれていると思いますし、医師・看護師からも、「このくらいの症状なら日中に来てください」とお願いもしております。今後は、コンビニ受診に対する出前講座を行い、住民と良い関係を築いていきたいと思っております。

子どもを日中寝かせておいて、夜仕事が終わってから連れてくる親もいるが。

→ 当院の小児科の先生は、「どんなに軽い症状でも、親は救急と思って来院されている」という認識を持っており、病院としても、そういう姿勢で対応しておりますので、一概に「(軽い症状の患者様に対し) どうして来たの」ということにはなりませんので、ご理解いただきたいと思っております。

(2) 公立病院改革プラン

担当者より、資料に基づき報告。

3 協議事項

(1) 地域医療連携の推進について

担当者より、資料に基づき報告。

(2) 医師・看護師の確保について

担当者より、資料に基づき報告。

<佐原委員>

紹介率40%は難しいのでは。紹介患者への優遇制度はありますか。

→ 紹介患者への優遇制度は非常に大事なことであります。

今年、地域医療支援病院の認定を受けた富山市民病院では、「ふれあい地域医療センター」を開設し、職員1人が紹介患者に付き添いながら、優先的に外来診察をするようにしています。

今後は、ただ「紹介して欲しい」と言っているだけではいけないので、患者様が紹介された開業医の先生のところへ帰って、「紹介してもらったら、非常に良くしてもらった」と言ってもらえるようにしていきたいと考えております。また、地域全

体が、そのシステムを理解できるような、何かの仕掛けをしていきたいと思っております。

当院でも、地域医療連携室を通して来られる紹介患者様につきましては、職員が正面玄関でお待ちし、外来まで案内しております。また、事前に連絡のない紹介患者様につきましては、各ブロックの受付に案内看板を設置し、申し出をしていただくようにしております。

紹介率40%というより、むしろ、開業医の先生に診てもらえるような患者様を抱え込まず、逆紹介をしていくことによって、紹介率も上がってくると思っております。今までどおりのことをやっても何も変わらないので、みんなで本腰を入れて、取り組んでいきたいと考えております。

<法橋委員>

病院の広報誌である『陽だまり』で、今言われたことを上手に、そして本音で啓発して欲しい。そうすれば、住民にもわかってもらえるのではないか。

→ 次回の発行の際は、是非掲載していきたいと思っております。

<谷内委員>

地域医療連携の広報のために、ケーブルテレビを利用し、地域の開業医の先生が出演し、開業医の先生の顔を、住民が親しく感じる番組を能登病院が作成するのも良いと思います。

出前講座にしても、開催場所に近い開業医の先生と一緒にいき、地域の開業医の先生の顔を、住民にわかってもらうことも必要ではないか。また、公民館講座と共催することもより一層連携が深まると思います。

<池島委員>

働きがいのある職場にするには、職員を褒めることも大事ではないか。総合案内やBブロックでの患者さんへの対応で、とても心が温まる光景を目にしました。職員の皆さんをもっと褒めてあげて欲しいです。

褒める事によって、明るく楽しい生々とした職場が生まれ、ひいては患者さんに対しての接し方にも影響を及ぼし、温かい職場が生まれるものと思います。日々心安らかな環境を作りましょう。

<谷委員>

人は病体になった時に病院に行きます。同じ症状でも、30日で回復する人もいれば、15日の人もいます。大事なものは、その人の生命力であり、看護師さんには、患者さんの生命力を強くする対応や言葉のかけ方をして欲しい。患者さんが早く回復することで、少しでもコストが安くすむようにして欲しい。

<津田委員>

私のような若い世代（30代）は、子どものことを除いては、病院のことや医療問題に関心がないのが現状です。その反面、最近の不景気などにより精神的な問題を抱えている者も多い世代です。このようなことから、今後は、地域の病院のあ

り方について、病気にかかっていない人も、市民として関わっていくことが大切だと認識しました。

<諏訪副会長>

88歳のおじいさんが、1月の大雪の日に病院へ行こうと七尾駅に来たら、バスやタクシーが1台もいなくて困っていたところ、能登病院の職員が、「一緒に歩いて行きましょう」と声かけをしてくれて、どうにか能登病院まで歩いて行くことができたそうです。

おじいさんの家族の方から、とても感謝していると聞いています。

4 その他

担当者より、委員の任期満了及び今後の委員の選任方法について案内。

5 病院長閉会あいさつ

藤岡病院長

(午後5時10分閉会)